

津屋崎千軒新聞

¥0
第2号
夏

平成十九年七月

発行 津屋崎千軒 海とまちなみの会
事務局連絡先 〒811-3304 福津市津屋崎369-14
会長 吉村勝利
E-mail: yosi3019@sage.ocn.ne.jp

今回の総力特集 昔の津屋崎海水浴場の話と写真
○昔は海で水泳授業や運動会
○天神町の浜にブランコがあった
○浜では、貝がいっぱい取れた
○本町や天神町は賑やかな街だった
○津屋崎橋は開閉式だった！
○波止場からイワシクジラ水揚げ

2面に昔の海の
グラフ特集掲載

昔は海で水泳授業や運動会

福岡から渡った軍艦めぐし、折り返して天神町まで遠泳した

子供のころは、学校から海に泳ぎに行っていた。女の子は水着を着ていたが、男の子は黒いキンシリうちよだった。写真①。この授業に遠泳というのがある。高等

科一年から二年の時、福岡の浜から渡った。折り返して天神町の海岸がゴールだった。この軍艦は、日露戦争(明治三八年)五月二七日、司令官の東郷平八郎元帥の率いる旧日本海軍連合艦隊が、世界最強のバルチック艦隊を日本海で撃破し、日本が勝利した。



①津屋崎海水浴場で楽しむ子ども達

折り返して天神町の海岸がゴールだった。この軍艦は、日露戦争(明治三八年)五月二七日、司令官の東郷平八郎元帥の率いる旧日本海軍連合艦隊が、世界最強のバルチック艦隊を日本海で撃破し、日本が勝利した。



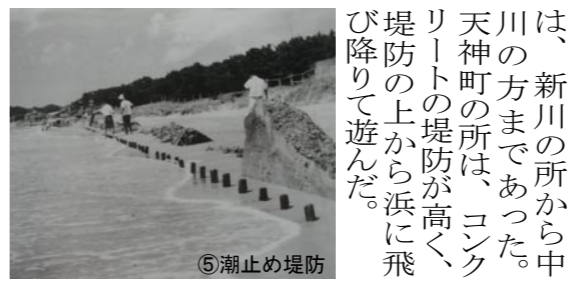
②ロシアの軍艦



③ぶらんこ



④水上飛行機



⑤潮止め堤防

天神町の浜にブランコがあった

天神町の浜には、ぶらんこ。写真③。川の方まであった。天神町の所は、コンクリートの堤防が高く、堤防の上から浜に飛び降りて遊んだ。

◆浜では、貝がいっぱい取れた◆

昔は、津屋崎の浜や内海(うちうみ)で、貝がいっぱい取れた。小さなナミセンガイ(津屋崎では「マメガイ」とも言う。ナミノコガイ)は、歯でかんだら甘くて、身を釣りの餌にした。マテガイより大きく長いコクラマテ(オオマテガイ)は、東町の沖合にあった。一文、字波止の方について、取るのが難しかった。コクラマテの取り方は、いそうな砂浜をまず後ろ向きに歩き、足の裏に触ったから逃げ方が早いので、くわで急いで取った。また、中川のほとりには、両手の親指と人差し指をつなげた三角形くらいの大きなハマガリがいて、三銭で旅館が買ってくれたが、今はもういない。

◆本町や天神町は賑やかな街だった◆

昔の津屋崎は、塩田があったから栄え、内海には大きな船があった。石屋さんは十軒もあり、石塔の墓を持つことがステイタスだった。みんな貧しかったけど、昔は良かった。本町通りは街やっとな遊郭もあった。

開閉式だった津屋崎橋

内海に架かる橋は「津屋崎橋」となっているが、みんな「渡(わた)り」橋と呼んでいた。昔は、内海に船が入れるように真ん中が開閉式になった。跳ね橋。写真⑥。おじいさんが手で操作して橋を上げよつた。橋が降りている時でも、そのつなぎ目は少し開いて、すき間から海が見えたので、子供の時は渡るのがちよつと怖

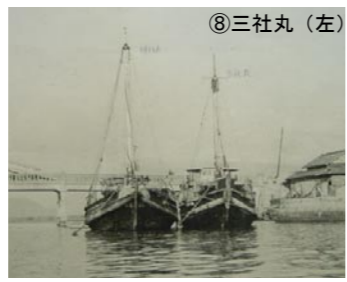
かった。料金は、津屋崎の町から来る人は三銭で、渡の人はただだった。「ちよつとや」の素うどんが五銭で、お風呂代が二銭だった。「渡橋」の上から見ると、たまには四〇センチくらい大きな魚が内海に入っていくのが見えた。ピンポン玉より小さな白い玉が付いた針を橋から垂らすと、タコが面白いように取れた。



⑥開閉式の「渡橋(津屋崎橋)」

◆波止場からイワシクジラ水揚げ◆

津屋崎漁港の波止場。写真⑦。イワシクジラを揚げてとった。この写真に映っている船が、私が乗っていた「三社丸(さんじゃまる)」の写真⑧。津屋崎漁港の渡側には(魚を放流した)「活け洲場」があった。



⑧三社丸(左)



⑦津屋崎漁港

◆昭和十年創業の旅館「正直亭」◆

かつて、白砂青松とうたわれた津屋崎の海辺に創立された旅館の一つに正直亭。写真⑨。現在営業なさっているのは、三代目竜口直幸さんです。創業は昭和十年で竜口幸次郎氏が新鮮な海の幸を多くの人に味わって貰おうと開業。当時は三階建ての建物がいっぱい満員でした。その後、昭和五十年頃をピークに客が減り、海辺の旅館等は数少ない営業となりました。平成十年に新装された建物の大浴場から青々と広がる海を見ながらゆつたりと心身共に安らいで頂けたらと思います。



津屋崎千軒 海とまちなみの会からのお知らせ

参加者募集

福津市・津屋崎千軒の活性化を図る住民団体「津屋崎千軒海とまちなみの会」は、九月四日から二五日までの毎週火曜日(四回)に「ボランティアガイド養成講座」を開催します。

江戸時代から「津屋崎千軒」と呼ばれて栄えていた町並みの歴史や、郷土の文化、動物園まで幅広く案内できるボランティアガイドの養成を目指し、「福津市住みよいまちづくり推進企画」・「郷育カリッジ認定講座」として開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

講師は、「海とまちなみの会」の花田貞夫・ボランティアガイド運営委員会委員長(福津市観光協会ボランティアガイド)と大賀康子・マップ・景観デザイン運営委員会副委員長(津屋崎郷土史会)です。

申し込み・問い合わせ先「海とまちなみの会」吉村勝利

申し込み期限 八月三〇日(木) ※必着

◆津屋崎千軒 海とまちなみの会 会員・賛助会員募集

津屋崎千軒の活性化を目指し、「津屋崎千軒海とまちなみの会」を設立しました(会員は、市内外の男女五五人)。江戸時代から海上交易の港町として栄え、「津屋崎千軒」と呼ばれる古い町並みの保存と海辺の自然保護を図ります。入会(会員・賛助会員とも年会費千円)を申し込みは、会長 吉村勝利(〒811-3304 福津市津屋崎三六九-1) 電話 三三〇九-〇七四五・八〇六三。E-mail: yos3019@sage.ocn.ne.jp



◆懐かし津屋崎の海水浴 座談会◆

昔の津屋崎の姿を教えて下さる方たち。津屋崎の字引を長引した。座談会に出席の皆さん(敬称略、五十音順)。

- ▽入江静子(大正七年生、五反田)▽占部正枝(大正十二年生、岡の三)▽大浜茂(大正十四年生、浜の町)▽大浜秀吉(大正十四年生、新東区)▽津崎米夫(大正十三年生、新東区)▽中村キク(大正十一年生、北本町)▽西住マサ子(大正十四年生、天神町)。